

- 第2分科会 -

シニアは地方創生の担い手

NPO法人コミュニティビジネスサポートセンター

代表理事 永沢 映

最近のシニア起業の傾向と課題

【主な傾向】

多様な年代、属性の方が起業する(経営の素人も起業も多い)
兼業、副業、複数の法人での経営などリスク分散型が増えている
補助金、相談窓口、セミナーなど支援を活用しての起業が可能
ローリスク、ローリターンで3～5年計画も多い(業種による)
「社会性+事業性」(=社会性のある事業)が一般化してきている
地域密着、ワークライフバランスある起業の傾向が高い

【主な課題】

起業までは至らずに受け身の層が多い
創業補助金など支援が充実している反面、起業時にリスク意識
や責任感、覚悟が弱くなる傾向がある
男性、女性、年代などで固まる傾向にあり、多様な連携が少ない

最近のシニア就労の傾向と課題

【主な傾向】

近隣地域での就労ニーズが高い

「肩書」「褒賞」「役割」などあることでモチベーションが異なる

知的労働を求めるニーズが高い(肉体労働×)

適度な収入のある仕事への要望が高い(ボランティア×)

「働きたいときに、適度に、短時間」の不定期就労の要望もある

【主な課題】

「主体性」を保つことが大切で、コーディネーターの存在が必要
シルバー人材センターではシニア就労のニーズを拾えていない
就労によっての効果(個々にとっての効果)を明確にできるとよい
能率の悪い労働力になる場合、時給 成果給等の工夫は必要

地域づくりの上で把握すべきこと

人口が大幅に減少していくことを前提として、かつての人口規模や活性化を目指すのではなく、現実のボリュームに基づいた地域づくりを心掛けること。

全国の他の地域との競争が激しくなり、人口増加やブランドづくり、観光においてはアイデアや付加価値、特徴を常に磨いていく意識が不可欠

65歳定年ではなく、平均寿命が80歳以上、健康寿命が70歳以上の時代においては、65歳～75歳または80歳以上まで活躍できる場や機会を創出する

空き家、空き店舗、老朽化した公共施設、廃校などの資源を課題ととらえず、資源として活用していくことが必要

地域活性化とは「無駄をなくすこと」「経済振興をすること」「地域経済循環を進めること」の3つが成立してはじめて経済的に元気な地域づくりにつながる。つまりシニアが地産地消な生活を送ることは経済循環の上でとても重要。
(例 / 10万世帯 × 世帯所得平均300万円の10%を地域で消費 → 30億円の効果)

事例から学ぶ「仕組みづくり」

多くの地域では高齢化に向けた地域の対策として、シニアの就労や起業を推進してきている。

それは労働力としての期待もあり、健康寿命増進の目的もあり、かつ生涯イキイキと地域で暮らしてもらうことで活力向上につなげたいなど様々な目的がある。

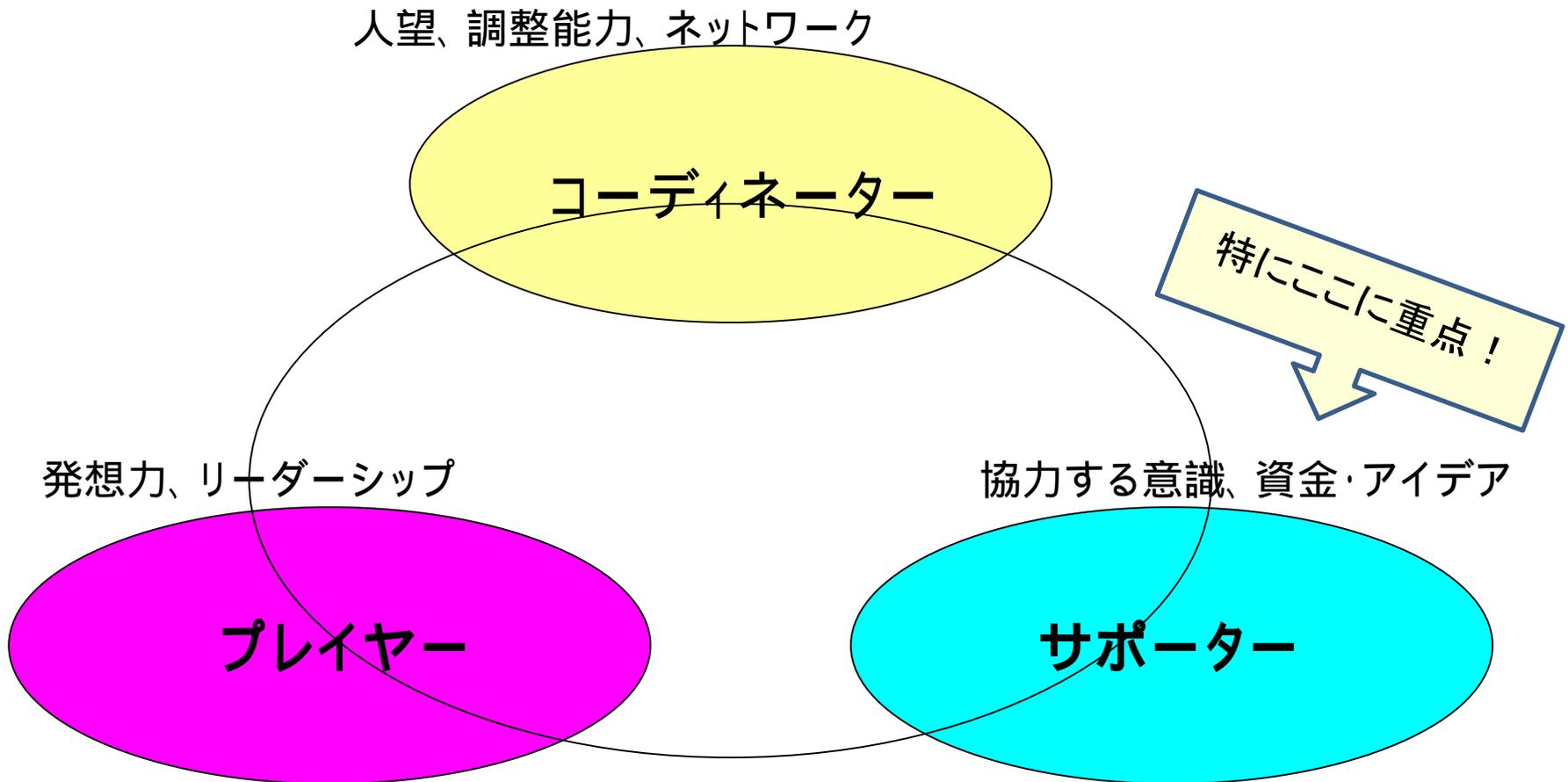
そのためにはシニアの意識の傾向を掴んだうえで地域ならではの仕組みを講じることも必要となってくる。主に2つの点を抑えた事例を中心に検討をしてみたい。

1. 「肩書き・役割」「場・仲間」「事業モデル」を提供する仕組みとする

2. 主体性・自主性を持たせる「この指とまれ」の組織や機能をつくる

共通点は、いずれも高齢者個人に過度な負担とリスクを負わせないことにあり、地域としてプレイヤーとサポーターをいかにして自発的に関わる環境(仕組み)を提示できるかにある。

サポーターの巻き込みが効果的



* 時と場合、場面で一人ひとりの役割と立場が異なります。

事例 地域全体のデザインによるまちづくり

長野市では、北陸新幹線開通による危機感を含め、市民が一体となったまちづくりを進めている。

建築家とともにリノベーションのまちづくりを多様な担い手が創出している。

並行してイベントやまち歩きなどにより、地域を回遊できるまちづくりを目指している。

これにより若者の担い手増加にもつながりここ10年でも60以上の空き家・空き店舗を活用した事業が開始された。



←まちづくりセンター



←風の公園(芸術家の拠点)



←外国人向け宿泊施設



→古民家利用のピザハウス



→ビニール傘工場跡地利用



→古民家を活用したカフェ等

長野市善光寺門前のリノベーションまちづくりの変遷

年	リノベ主体	
1992年	ネオンホール	1
2003年	ナノグラフィカ	1
2004年	OSTERIA La Tosca	1
2005年	na-na分室、 まちなみカントリープレス & hiyori CAFÉ	2
2008年	つぼみ(花屋)	1
2009年	café MAZEKOZE、 パスタ&自然派ワイン こまつや、 KANEMATSU、 豆蔵、 1166 backpackers、 鳥蔵別館 東屋、 ARTSPACE FLATFILE、 銀猫	8
2011年	ch.books、 カフェ日々、 オリカフェ、 gallery & factory 原風舎、 しふおん & ケーキ華恋、 Hand-made House 野の花、 ②①子どもの服 コトリ、 ②②Book & Cafe ひふみよ、 ②③café barbara、 ②④Cake & 喫茶 春陽、 ②⑤シンカイ、 ②⑥門前町屋ぎゃらりー 十二天	12
2012年	②⑦オープンアトリエ 風の公園、 ②⑧ギャラリーショップ 花蔵、 ②⑨薪窯焼PIZZA TIKU-、 ③⑩漢方とハーブの店 なつめや、 ③①Roger、 ③②cafe風和、 ③③珠露、 ③④アンハウス、 ③⑤団地堂2号店、 ③⑥十糸、	10
2013年	③⑦まほう堂、 ③⑧豆暦、 ③⑨藤田九衛門商店、 ④⑩アソビズム、 ④①maruya、 ④②はなちょうちん、 ④③リリー・フォレスト、 ④④flatbar、 ④⑤Co art house、 ④⑥菓子と珈琲 ランスルール、 ④⑦パティスリーオー・スガ	11
2014年	④⑧新小路カフェ、 ④⑨CAMP不動産、 ⑤⑩CREEKS、 51ROBIN8、 52ハーブ & よもぎ蒸し パルムレ、 53ツタハウス、 54喫茶ヤマとカワ、 55THE BIRD、 56Farmers Kitchen Gondo、 57OND WORK SHOP、 58IVY product、 59Stripe、 60natural anchor、 61オールド8、 62Flower Deco Hare Bana	15

2015年度NAGANOシニアライフアカデミー 善光寺門前の新しいまちづくりをめぐるexcursion・MAP 築山秀夫氏作成 2015.9

GOAL

START
講義会場

三原屋(味噌・醤油) ③③
ROBIN8(雑貨)

②⑦台湾茶珠露:2013年5月
②⑧津方ハーブなつめや:2012年4月
③①フライトファイル(ギャラリー):2010年3月
③②コトリ(子供服):2011年5月
②⑨アヒメス長野支店:2014年

②⑥長野
村庄屋
2013年5月

②④春陽(カフェ):2011年2月
②③ロジェ(雑貨):2011年4月
②②アフリカ:
2003年4月
②①河屋洋傘専

an house(シェアハウス):2012年

シンカ:
2011年
月

BOOK
CAFÉひ
ふみよ

③⑩旧長野県庁

こまつや:2009年4月

MARUYA(カフェ・雑貨):2013年6月

THE FUJIYA GOHONJIN:2006年4月

野の花工房:2011年4月
(カフェ、ハンドメイド用品)

ボンクラ:2009年12月
遊歴書房(古書):2011年6月

HEIGORO:2012年4月
(カフェ)

銀猫(瓦・アンティーク)豆蔵:2010年
豆磨(和菓子):2011年

パティオ大門蔵庭:2005年9月
2004年12月

粉門屋仔猫(カフェ):2013年10月
MY ROOM(不動産):2010年8月

カフェMAZEKOZE:2009年11月
166バックパッカーズ

カフェバーバラ:2011年8月
新小路カフェ:2014年4月(カフェ、シェアオフィス)

不動産 花蔵(ギャラリースペース):2010年6月(ショップ):2014年10月

flatbar:2013年12月

織りカフェ:2011年

ネオンホール(ライブハウス):1992年

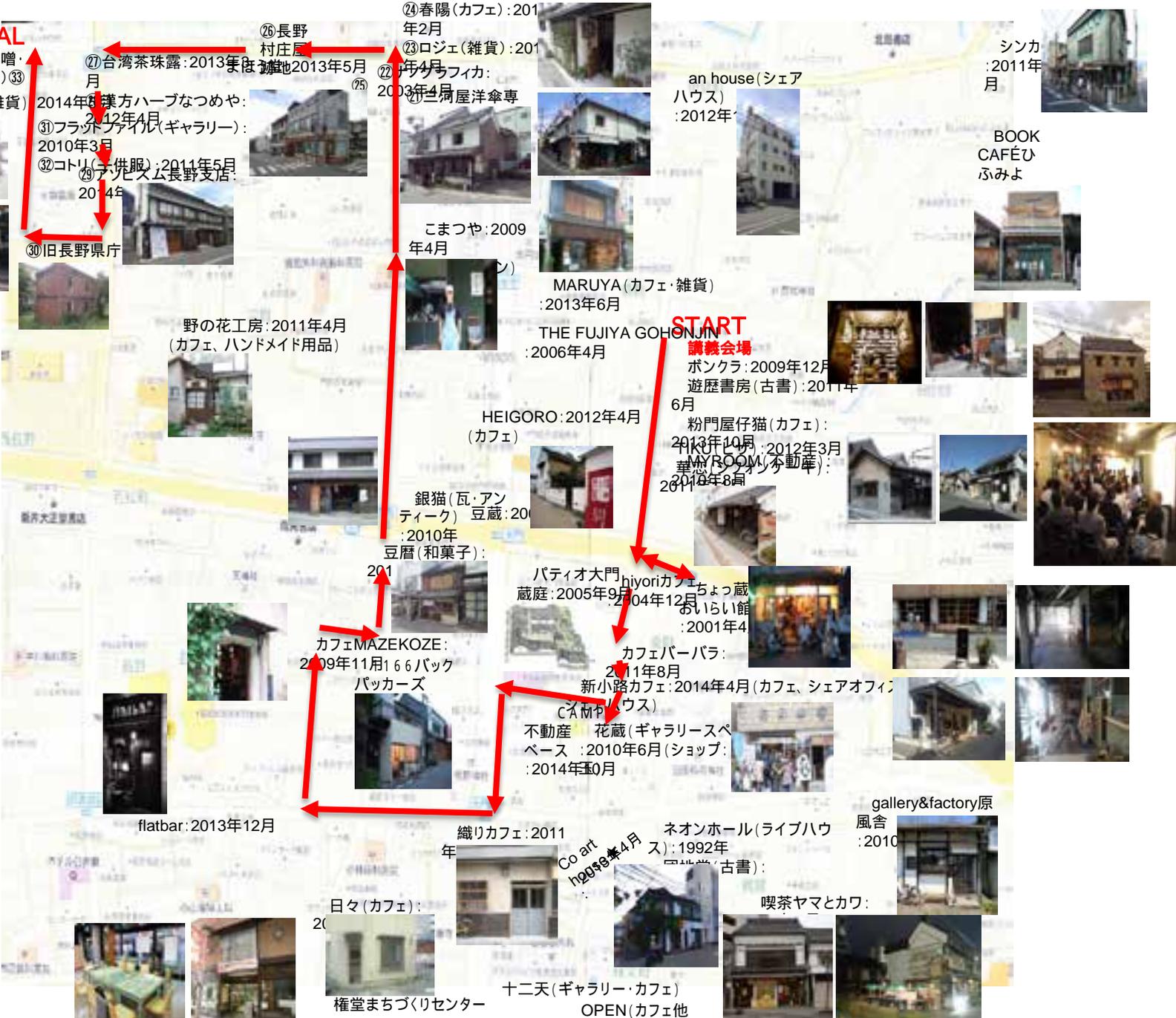
gallery&factory原風舎:2010

日々(カフェ):2011

喫茶ヤマとカワ:

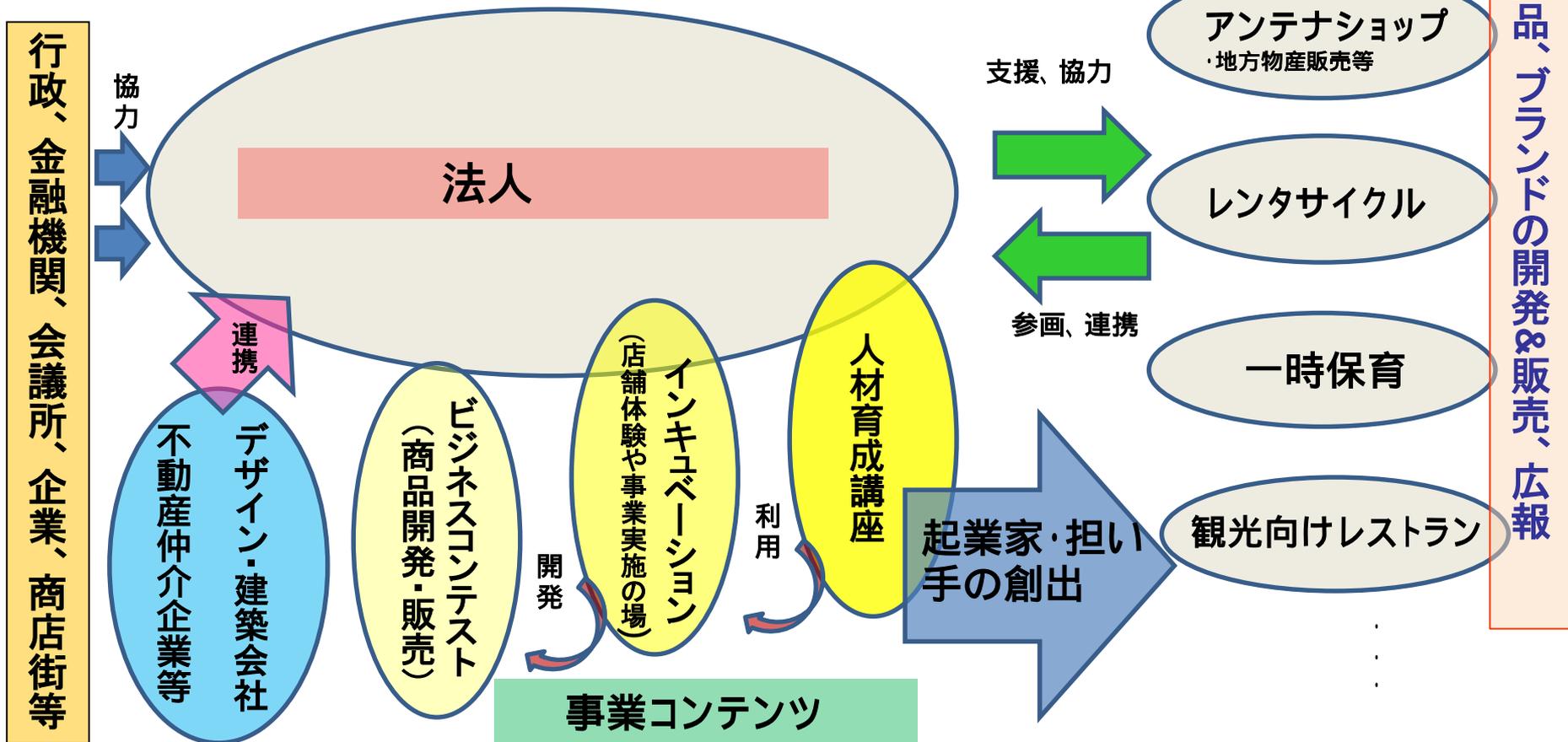
権堂まちづくりセンター

十二天(ギャラリー・カフェ) OPEN(カフェ他)



シニアによる地域密着型(商業活性化型)のビジョン形成 (案)

全国では高齢化に関する課題が叫ばれる反面、シニアがもっと活躍できる地域づくりが不可欠となってきた。また各地域の商店街の活性化とともにシニアの活力が活かされると地産地消なまちづくりにもつながる。そこで「法人」が行政、各機関と連携をし、空き店舗・空き施設をリストアップ・リノベーションをし、店舗を活用したシニアの人材育成をし、商品開発、情報発信の支援とともにサポーター層も巻き込み、魅力ある地域をPRし、観光集客と地域経済活性化を実現する。



創業者・事業者 (第二創業含)

コミュニティカフェ
・アートカフェ / お休み処等

アンテナショップ
・地方物産販売等

レンタサイクル

一時保育

観光向けレストラン

共通商品、ブランドの開発&販売、広報